

税関のミライビト

Customs Future

分析部門 -税関で活かす理系の力-

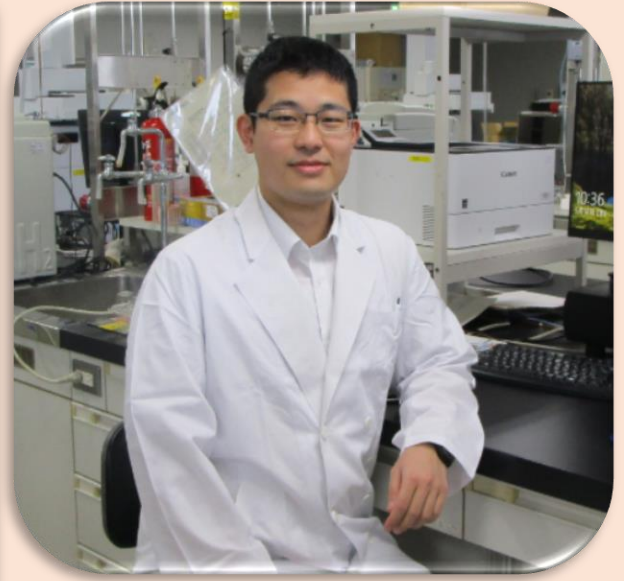
税関での分析業務は、大きく2種類に分けられます。1つ目は、関税率決定の化学的根拠を提供する分析です。輸入貨物の関税率は、構成成分等を勘案して決定されるため、成分割合等を正確に把握しなければなりません。例えば食品では、砂糖や塩の割合によって関税率が異なる場合があります。分析によって正確な定量値等を示すことで、適正かつ公平な関税等の徴収に貢献しています。

2つ目は、麻薬、覚醒剤や大麻などの不正薬物や

金の鑑定です。疑義のある物品が通関部門等で発見された場合、見た目だけで違法であるか判断できないため、分析部門で分析を行います。分析の結果から、その貨物が不正薬物であるか、金であるかが判断されます。



慎重に・・・
落ち着いて・・・



平成31年度採用一般職大卒（化学）

業務部 分析部門

◇ 職員の1日 ◇

- 8:30 出勤、メールの確認、装置の立ち上げ
- 9:00 分析依頼を確認、実験のスケジュールを立てる
- 9:30 実験開始
- 12:15 昼食
- 13:00 部門内のミーティング
- 13:15 実験再開
- 16:00 実験結果を整理し、成績書を作成
- 16:30 片付け
- 17:00 退庁

～税関を志望した理由～

私は、学生時代に、様々な分析機器を扱った研究と英語学習に打ち込んでいました。その経験を活かしつつ、広く人のためになるような仕事をしたいという思いがあったため、国民に奉仕することができ、分析業務のある官公庁を探していたところ、税関に分析部門があることを知りました。また、税関には、分析業務以外にも、取締業務、旅具や貨物の通関業務、非常に幅広い業務があり、挑戦と刺激に溢れ、英語技能も活かせると思いました。さらに、関税中央分析所という分析専門の機関の業務に携わることができる、という点も非常に魅力的であったため、税関を志望しました。

Q、今の職場の雰囲気はhowですか？

A、非常に風通しが良く、係員同士だけでなく上司とも話しやすいです。実験は基本的に1人で行いますが、行き詰った際には気軽に相談できます。また、自主性が尊重される傾向があり、積極的な行動を取りやすいです。

Q、今後の目標は何ですか？

A、関税中央分析所でより高度な税関分析を経験し、分析業務に対する専門性を高めたいです。また、通関部門等の分析を依頼する側の業務も経験して、分析とそれに関係した業務に対して広く知識を持った職員を目指します。

